

編：吉村 長久，山崎 祥光

トラブルを未然に防ぐカルテの書き方

書評者：松村 由美(京都大学病院医療安全管理室長・教授)

本書は、吉村長久氏と山崎祥光氏の共同編集によるものです。吉村氏は、京大眼科教授から北野病院病院長になられました。山崎氏は、京大医学部卒業後、同大学での研修医を経て、同大学法科大学院で学び、現在は弁護士として活躍されています。吉村氏は管理者として、山崎氏は弁護士として、カルテ記載の重要性を痛感され、本書を企画されたのだらうと思います。私も、医療安全管理者として、カルテ記載がいかに重要かを知っています。重要性を認識している3名に共通することは、「痛い目」を経験しているということかもしれません。

病院管理者、医療側弁護士、医療安全管理者は、あらゆるトラブルを経験します。私も、臨床医のまま一生を終えていたら経験しなかったようなことを経験してきました。その経験の中で、ぜひ、スタッフに伝えたいと思ったことが

「カルテの書き方」です。今まで、私がこの十数年、経験的に学んだことが、本書では、コンパクトでありつつ、豊富な根拠を示した上で記載されています。本書はどの部分から読んでも、一つひとつの話題や内容が完結しているために、カルテ記載について気になったときに読むということもできます。また、時間のあるときにパラパラとめくって、斜め読みするだけでも、十分勉強になります。医局に数冊置いておくとうりであること間違いなしです。

さて、先ほど「痛い目」を経験したと書きましたが、医療事故調査の際、現代ならではのカルテの記載についてリスクを痛感することがあります。例えば「コピペ」。本書では、コピペによってトラブルが生じる例が示されています。「えっ！ コピペ？ いつもやってるけど、どこが困るの？」と思われた方は、ぜひ、本書でご確認

ください。また、最近はメール機能がついている電子カルテもあります。メール内容をカルテにコピペすると便利ですが、「それ、いつもやっていますよ！」と思われた方も、コラム「医師間のメールをそのままカルテ記載することの是非」を読んでみましょう。

医療安全学では、望ましくない結果となった事例について、その結果を生み出した背景要因を分析し、具体的な再発防止策を講じますが、本書は、「望ましくない医療者・患者関係に陥った結果から学び、カルテ記載を改善する」という学習の機会を提供してくれる有用な書です。

● B5・頁216 2022年2月
定価：3,960円
(本体3,600円＋税10%)
[ISBN978-4-260-04806-4]
医学書院刊